

2019年度 宮崎ユニバーサル・カレッジ 学校関係者評価表（評価委員コメント記載 及び まとめ） 1

評価項目(重点項目)	評価指導	目標(方策・手立て)	判断基準	自己評価	総合評価	結果の考察・分析及び改善策		
1. 教育活動	○教育理念・課程に沿った授業計画・実践をしているか	○「分かる授業」の実践。 ○シラバスを見直し再構築する。	◎担当科目のシラバスの作成・見直しを年度当初に行ったか。 ◎年度当初の講義導入時に学生にシラバス・授業計画を配布して授業の目標・目的・進捗計画等を伝えられたか。	B (2.5) 30年度 C(2.2)	B (2.7)	○自己評価集計の結果、シラバス・指導計画の学生への提示及び配布は、6名の教員中、3名しか行っておらず 実施率50% であった。年度当初は、昨年度の改善策である、「教務部が一括して製本して学生へ配布する」を計画していたが、各教科担当者の作成遅れがあり、製本に至らず、各教科担当者に一任した事がこのような結果となった。次年度こそ、4月10日迄に「シラバス・授業計画一括製本」を実現させ、 実施率100%を達成させる。		
	○キャリア教育の視点に立った教育方法の工夫をしているか	○「建学の精神」の具現化に徹する。	◎授業において キャリア教育に関する指導を行っているか。またその指導の定着を図っているか。 ◎進路や将来についての 学生指導・アドバイスをしているか。また心がけているか。	B (2.8) 30年度 C(2.0)		○全教職員ともキャリア教育について意識しているが、統一した見解で取り組んでおらず、教職員間の温度差は否めない。更には受動的行動の意見も見られ、教員へのキャリア教育等の講習会等を行ってきたい。 ○キャリア教育の一環として行っている、「卒業生講話」も3年目を迎えたが、同じ視点(乗用車系のディーラーメカニック)からのアドバイスばかりで、学生のキャリア意識に訴えかける力に陰りを感じている。今後は視点を変え、整備士だけにこだわらず、「管理」「企画」「営業」「部品」等にも視野を広げ、特に対人的に経験値の高い卒業生にシフトして、「自動車業界で働く喜びや楽しさ」を伝えていきたい。		
	自己評価 総合的な課題						学校関係者評価 ご意見・アドバイス等	
	自己評価 今後の総合的な改善策						-先生それぞれの仕事量の違いもありながら期限までの提出も難しいと思います。先生方でチェックして頂く事が1番だと思います。 -目標に向かって改善策を進めて欲しい。	
自己評価 今後の総合的な改善策						学校関係者評価 まとめ		
先ずは、「シラバス・講義計画はなぜ学生に配布するのか?」「企業や業界誌等で収集した企業情報やキャリア関連情報の情報を発信しないのか?」「1・2年生の取り組みや、1・2年生の学生情報を情報発信して教員間で共有しないのか?」等に教員自身が疑問を持ち気づき行動する。						-シラバスと講義計画の配布は以前からの目標であり、学生との科目担当者との接点の第一歩でもあることから、次年度は教務部主導で製本して学生への一括配布を行う。負担軽減も考慮して、そのため教員へは1月の段階からシラバス及び講義計画の見直しを呼びかけている。また、「卒業生講話」の講師選定に計画性をもち、広い視野で学生の興味関心を惹くものとしていく。		
2. 学習成果	○資格取得率向上を常に考え取り組んでいるか 又 貢献しているか	○過去問題の教材研究を怠らない。 ○必須取得資格の未取得学生を常に意識した指導を行う。	◎現2年生の2級模試(12月期)において、 担当した科目(1・2年次に担当していた、担当している)のセクション平均点は6割を超えているか。	B (2.5) 30年度 C(2.3)	B (2.7)	○正確を期すために12月期に2回実施した模擬試験をもとに4セクションをガソリンとジーゼルの2に分けて正答率を分析した【2級ガソリン】 エンジン:64%、シャシ:56%、工学:69%、法令:78% ⇒ シャシ以外のセクションで判定基準の6割は超えている。法令は8割に近く、一見すると習熟度が高く感じるが、安心は出来ない。正常進捗と判断。 【2級ジーゼル】 エンジン:49%、シャシ:54%、工学:43%、法令:57% ⇒ 全てにおいて判定基準を下回っている。法令のみ55%を超えているが、それ以外は55%を下回り、エンジンと工学セクションの落ち込みがひどい。ガソリンに比較してジーゼルの進捗は問題である。指導方法の改善が至急必要。 上記から、80%を超える習熟セクションはまだない。上記の分析を踏まえ、先ずは担当教員が現状の分析のため学生個々の現状を把握して、その改善の方策を学科会で検討して、組織で対応したい。(※: 昨年度との進捗を比較したが、問題が違うため判断が出来ない。そういった工夫が必要)		
	○就職内定率向上を常に考え企業との円滑な関係構築に取り組んでいるか	○学校行事と連携した企業との密接な関係構築に努める。	◎業務の 企業窓口担当者は、積極的に行動・提案して、円滑・綿密な企業対応に心がけ学生・学校の評価向上に努めたか。 ◎業務の 企業窓口担当者以外、担当者のサポートとして、事前準備等に積極的に取り組み、学生・学校の評価向上に努めたか。	B (2.8) 30年度 C(2.2)		○昨年度問題提起した、年度当初からの「定着を兼ねた企業訪問」が学科主導で行われなかった。今年度も問題提起をしてからの訪問活動となったが、リストづくりにはいたらず、早期離職の抑止力になたかの判断が出来ない。次年度こそ学科主導で訪問計画をたて、確実な訪問活動を行い定着と連携と信頼を築きたい。 ○現在、担任が業務責任者として企業訪問の「計画」「訪問」「案内状」「お礼状」等を担当している場面があり、決して効率よく計画的な訪問行っていない。次年度から「計画的に効率よく、先方の状況を把握して共通認識の基企業訪問を行うため。業務責任者が策定した業務計画に基づいて行い、業務責任者はその訪内容と訪問の主旨をしっかりと教員に周知させる。(業務責任者は、担任・担当ではなく、教頭又は学科長及び各主任である)		
	自己評価 総合的な課題						学校関係者評価 ご意見・アドバイス等	
	自己評価 今後の総合的な改善策						-ガソリンの成績は順調だと伺ったがジーゼルの成績が厳しいとの事。不得意の分析も素直らしく、今後の指導に期待したいと思います。ただ今年度以降、問題が変わる度にボリュームが増えて先生方の負担が増えるのも心配である。 -何の為に資格取得なのかを、「卒業生講話」等を更に充実させて、学生に今一度再認識させて欲しい。	
自己評価 今後の総合的な改善策						学校関係者評価 まとめ		
今年度も「二級整備士資格試験」に焦点を絞り、12月期模擬試験の各セクションの正答率等を数値的判断基準に据え評価した。自己評価は昨年度より向上しているが、模擬試験の結果は数値だけ見ると下がっている等、矛盾を感じる。昨年度提唱した、責任を果たす組織への意識改革への取り組みは行ったが、具体的な行動が行えたのか疑問がある。業務担当責任者の意識改革と、指示命令系統の確立が課題。						-2年次の今の時期になって勉強不足を嘆く学生が少なくない。1年次の到達レベルの標準を上げ、定期試験毎に到達させる項目を策定できていない結果と考える。1年生次の「基礎基本」に重きを置き、2年担当の先生方の負担軽減も図りたい。「卒業生講話」等を充実させながら、資格に向き合う学生の意識改革を図りたい。		
3. 学生支援	○学生と平日頃より良好な関係を築き、学習・進路・生活の支援を行なっているか	○些細なことにも「気づこうとする」精神状況を養う。	◎学科会、学年会、推薦委員会等の開催や 開催要望等を行い、学生の情報共有に努め、学生がより良く改善するための指導策教検討等に対して積極的に問題提起・発言・提案を行ったか。	C (2.3) 30年度 C(2.2)	B (2.5)	○「学科会の議題が多すぎて長時間の会議となっている。案件発生に対して必要に応じて会議が行っては欲しい」との要望が教員より出ている。先ずは全教員が「学生が主役」の意識を持ち「問題を先送りしない」「問題に対して情報発信力を持つ」等、迅速に対応する姿勢で業務を遂行する。更には迅速に「学科会」「学年会」の開催が出来る柔軟な組織づくりを行う。 ○会議を行う場合は、議題の予告を事前に行い。考える時間を設けて、意見のしやすい環境づくりも必要。		
	○学生への目配りを怠らず、退学防止に努めているか	○無欠席の目標を掲げ取り組む。 ○些細なことにも「気づこうとする」精神状況を養う。	◎ やむを得ないとの判断(管理職判断)以外の退学者の発生は出ていないか。 また、 予備軍を適切に指導できているか。 ◎科目担当者として、必ず 毎回授業中の情報を担任へ自ら提供したか。	B (2.5) 30年度 C(2.3)		○今年度の現在までの退学生について、(【2年生】退学者なし) 【1年生】:3名 [Aさん]=進路変更、[Bさん]=進路変更、[Cさん]=進路変更 となっているが[Bさん]と[Cさん]は、「基礎学力不足」「学習意欲の欠如(「学ぶことが苦痛」)」が原因であり、彼らの将来を考えると整備士としての将来のビジョンには厳しいものを感じたが、『継続』する指導に傾注した。結果、もっと早期に背中を押してやれる指導が出来なかったのか課題が残った。[Aさん]は他県からの入学であり「ホームシック」が原因と考える。特にケアすべき学生であったが、発していたサインに気付かず、不登校となった。救えたはずの案件だった。今年度は教員の業務を考え「授業数減」を図ったが、次年度はその見いだせた時間を「学生とのコミュニケーション」に使うにシフトしたい。 ○教職員間で情報の共有が未だに図れていない場面がある。これは教員間の意識改革でしか解決出来ない。		
	自己評価 総合的な課題						学校関係者評価 ご意見・アドバイス等	
	自己評価 今後の総合的な改善策						-先生間での情報共有も大事だと思う。学生からの情報提供を含めコミュニケーションの強化をよろしくお願ひします。 -改善策の中にあるように、教職員間の情報共有を大事にして欲しい。	
自己評価 今後の総合的な改善策						学校関係者評価 まとめ		
学生に「やる気」を起こさせることは教員として最も重要なスキルである。そのスキルアップさせるためにも、必要と感じたら即学科会・学年会を小まめに開催して、密な教員間のコミュニケーションを図り、指導助言が必要な教員のレベルアップを行う。また担任の学生とのコミュニケーションを図るため、校務分掌から配慮を行う。						-目標・目的・価値観を共有する組織となるために、先ずは教員間のコミュニケーション強化のため毎朝のミーティングを実践していきたい。必要であれば臨機応変に会議を招集し、学生最優先で担任の負担軽減できる組織作りを行う。		

※授業評価は4段階評価です。 評価は4段階です。 A(4):期待以上、 B(3):ほぼ期待通り、 C(2):やや期待を下回る、 D(1):改善を要する
よって最高評価は4.00です。

2019年度 宮崎ユニバーサル・カレッジ 学校関係者評価表（評価委員コメント記載 及び まとめ） 2

評価項目(重点項目)	評価指導	目標(方策・手立て)	判断基準	自己評価	総合評価	結果の考察・分析及び改善策
4. 教育環境	○教室・実習場の整理整頓に心掛けているか 又 補修が必要な設備を放置せず報告したか	○「学びの場」の環境保全を教員・学生と連携して取り組む。 ○施設保全＝学生満足度と考慮して取り組む。	◎教材・機器備品の使用は 学科教員も把握しているか、使用後の片付けや清掃は即対応しているか。	B (3.0) 30年度 C(2.2)	B (2.7) 30年度 C(2.0)	○把握する前に、正確に管理された「教材・機器・備品リスト」教員への配布が必要である。そのリストをもとに、[今回の授業で、何をどれだけ使用する]等の申告を行い、教員間で把握出来る体制を作りたい。先ずは雑多となっている実習場の教材・機器の整理・整頓・廃棄を行い、徹底した管理体制が必要。 ○本校の教室等利用計画は、余裕ある教室を有効活用して教材・教具を常設した実習教室構想を考えているが、未だに1年生に1教室(二輪実習室)しか設置出来ていない。先ずは雑多となっている実習場の教材・機器の整理・整頓・廃棄を行い、徹底した管理体制のもと、電装実習教室を次年度設置したい。 ○やはり機器・備品購入要望ノートが必要と感じる。学生への還元を主に考え、必要なものを即時又は予算要求時確実に要望できるようなシステムづくりが急がれる。予算要求時に、どのような教材機器・工具を購入したいか聞いているようでは、「選ばれる自動車工学科」にはなれない。 ○実習場の機械・機器・工具の点検・改修・補充を行った。教育環境の維持に繋がっているが、管理が徹底しているとはいえない。学生の夏季休暇中に管理時間を設定する。(次年度管理徹底する。)
	○機器・備品の適切な取り扱いに心掛けたか 又 積極的に必要な機器・設備の要望を行ったか	○コスト意識をしっかりと持った業務を行う。 ○学生満足度を意識して業務を遂行する。	◎学科の予算要求に対して、「わかる授業」のための 教材の見直しを図り、必要と思われる機器購入等の要望を行ったか。	B (2.8) 30年度 C(2.0)		
	自己評価 総合的な課題					
	購入の提案も要望も「教材・機器・備品リスト」の教員間の共有ができてはじめて可能になる。科目担当者として使用する機器類を管理する基礎となることから、教員の意識改革も含め、先ずはシステム作りを急ぎたい。					
自己評価 今後の総合的な改善策					<p style="text-align: center;">学校関係者評価 ご意見・アドバイス等</p> <p>・1年間動きのなかった教材においては、廃棄処分とし、見せる工場を目指して頂きたい。学生募集にも繋がる機器を備えて欲しいと思います。 ・空いている教室を学生満足度を向上させるために有効活用する必要があります。</p> <p style="text-align: center;">学校関係者評価 まとめ</p> <p>・先ずは備品リスト及び管理場所の見直しへの取り組みと使用していない機器等の洗い出しを最優先に行う。その後、実用的な実習教室を設置を検討して欲しい。</p>	
5. 学生募集	○学生募集活動を積極的に行っているか	○募集定員を確保できるように全教職員で取り組む。	◎担当地区の 募集目標を達成できたか。 ◎担当校に 特化したオリジナル資料を作成して募集活動を行ったか。	B (2.8) 30年度 C(2.0)	30年度 C(2.2)	○現在、定員目標に対して80%の充足率(40名の入学手続き) 【担当教員内訳】充足率125%:1名、充足率100%:3名、充足率60%:1名、充足率0%:1名、の状況であり、前年比138%と好調である。今年度の特徴は、NGH:18名、宮工:4名、鷗翔:5名、宮農:2名、都農:2名、日南学園:2名と複数名出願頂けた高校が増えたこと、2年以上の欠隔期間を明けて7高校から12名の出願頂けた事である。また例年複数名出願のある過年度は1名のみである。 ○担当地区・担当校の特性や特色の分析は未だに不足しているためか、オリジナル資料の提案や作成は、限定された教員のみである。全教員の統一した募集に対する意識改革「他力ではなく自力」は、まだまだ必要と感じている。
	○学生募集活動において、教育活動成果を適切に対象校担当者に伝えているか	○高校訪問を常に意識して情報発信を心がける。	◎担当の重点校には、 毎回面談頂けるMJCファンの先生がいるか。 ◎決められた情報提供に終わらず、 高校毎の特色を考慮しプラスαとなる情報提供を行ったか。	B (2.7) 30年度 B(2.5)		
	自己評価 総合的な課題					
	受験者数前年比138%(29名⇒40名)となったことは、過去2年間の低迷を払拭するものとなった。さらに、2年以上の欠隔期間を経た7校から12名の受験生を出して頂けたことは、諦めずに地道に信頼関係を築く努力をされた先生方の力だと感じる。次年度が正念場と考える					
自己評価 今後の総合的な改善策					<p style="text-align: center;">学校関係者評価 ご意見・アドバイス等</p> <p>・活動の報告を受け、先生方の努力に感謝致します。今後も協力し学生数を獲得できるよう、よろしくお願ひします。 ・中学生へのアピールを、日南学園高校自動車科と連携して積極的に取り組んで欲しい。</p> <p style="text-align: center;">学校関係者評価 まとめ</p> <p>・地元企業との連携を更に深め、高校生だけにターゲットを絞らず中学生にまで視野を広げ、「中長期的な自動車整備士の人材確保」の観点で募集を行って欲しい。</p>	
教員が担当地区・担当校の分析を確実にし、主体性を持ち計画的に募集活動を行う事だと思ふ。企画広報部に提案・要望できるスタンスを教員には持って欲しい。						

※授業評価は4段階評価です。 評価は4段階です。 A(4):期待以上、 B(3):ほぼ期待通り、 C(2):やや期待を下回る、 D(1):改善を要する
よって最高評価は4.00です。